

JAPAN GOLF ASSOCIATION

JGAGolf Journal



2025年は次の100年に向けて ゴルフ振興を加速させる1年に

創立100周年を迎えた昨年、JGAは組織改革やさまざまなゴルフ振興策を実行した。そして101年目に入る2025年、さらなる新策を打ち出し、日本ゴルフ界の旗振り役としてゴルフ振興を加速させていく。どのような取り組みを行い、また企画しているのか。山中博史専務執行役に聞いた。



組織改革、新大会発足等を実現した JGA創立100周年

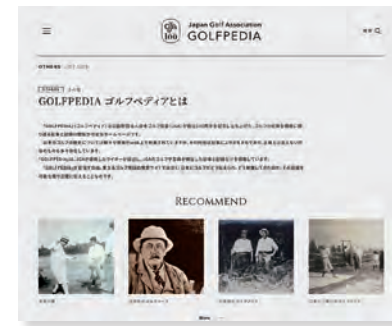
—— 創立100周年を迎えた昨年、JGAとしてどのような取り組みを行ったのでしょうか。

山中 100周年ですので本来であれば式典などができればよかったのですが、現在の状況を鑑み、JGAとして次の50年、100年をどうするかをきちんと検証して101年目からやるべきことを始めるきっかけの年にしようということに力を注いだ1年だったと思います。具体的にどのようなことを実行したのかと言いますと、ひとつは公益法人としてのガバナンスコードに則って6月の役員改選時に10年以上理事を務めた方と80歳以上の理事の退任、外部理事25%以上、女性理事40%の4点を達成しました。なかなかこういったガバ

ナンスコードを達成できない競技団体がある中でゴルフ界は組織改革を実行できたことが100周年の大きな出来事のひとつと言えるでしょう。

—— 創立100周年のような節目の年には記念誌などを発行する競技団体が多いと思いますが、JGAは出ませんでした。

山中 記念誌を出すべきだろうという意見はありました。ただ、今はデジタルの時代ですから検討を重ねた結果、競技やゴルフ場、用具などを含めゴルフを取り巻くさまざまな歴史を検証し、正しく伝えていけるものをウェブ上でつくって「GOLFPEDIA」(ゴルフペディア)を開発しました。これはデジタルですからどんどん書きができる。記念誌よりもいい形で日本のゴルフの史実をJGAとして発信できると考えています。



JGA創立100周年の節目に、ゴルフの史実を明確に振り返る記事と記録の閲覧が可能な「GOLFPEDIA」を開発した



3オープンで好評だった100周年のロゴマークが入ったグッズ

—— 昨年は100周年のロゴマークを各所で見かけました。

山中 JGAが主催する3オープンの会場などで100周年のロゴマークを掲出し、中継のNHKさんにも100周年をアピールしていただきました。また3オープンの会場で100周年のロゴマークが入ったグッズも販売し、好評でした。

—— 殿堂についてはいかがですか。

山中 10年以上前にプロの団体だけで日本プロゴルフ殿堂が設立されて顕彰などを行ってきました。ただ、ゴルフの殿堂として本来あるべき姿を考えた時にプロゴルファーだけでなくアマチュアゴルファーやゴルフ界に尽力された方々も顕彰して末永く語り継いでいくべきではないかということで、数年前から日本プロゴルフ殿堂とJGAで話し合い、今年から日本ゴルフ界全体の殿堂である日本ゴルフ殿堂をスタートするための準備をした1年でもありましたね。

—— 競技面では60歳以上の女性ゴルファーを対象にした日本女子グランドシニアゴルフ選手権を創設して第1回大会を武蔵カントリークラブ笹井コースで開催しました。

山中 はい。男子はシニア(55歳以上)、ミッドシニア(65歳以上)、グランドシニア(70歳以上)とシニアの中でも3つの年齢別カテゴリーがありますが、女子はシニア(50歳以上)だけでしたので以前から要望はありました。後ほどお話しするゴルフ振興にもつながることですが、女性ゴルファーを増やすこととシニア層にいかにか元気にプレーを続けていただくかということが大事です。その意味でも女子にグランドシニアをつくった意義は大きく、選手もモチベーションが上がったと喜んでくれていると聞きます。もうひとつ、100周年の昨年は日本女子シニアオープン創設の準備と発表をした年でもありました。今年も女子プロのシニア(45歳以上が対象のレジェンズツアー)の大会である太陽生命元気・長生きカップを引き継ぐ形で従来とほぼ同じ形で開催しますが、来年以降は出場資格や競技日数、年齢などをどのようにするか協議しているところです。また、夏に開催されているJGA主催の日本ジュニアゴルフ選手権と日本高等学校・中学校ゴルフ連盟主催の全国高等学校・中学校ゴルフ選手権個人の部を一本化し、今年から両団体共催の日本ジュニアゴルフ選手権として開催することを発表しました。このところの夏の記録的猛暑の中での連戦を避けるとともに、一本化することにより日本ジュニアゴルフ選手権と全国高等学校・中学校ゴルフ選手権団体の部それぞれの価値を高める意味合いがあります。

パリ五輪で銅メダルを獲得した松山英樹選手



©IGF

新スローガンのもと、さまざまなゴルフ振興に取り組んだ

—— 100周年に開催した3オープン(日本オープンゴルフ選手権、日本女子オープンゴルフ選手権、日本シニアオープンゴルフ選手権)は盛況だったのではないですか。

山中 試合展開が面白かったですし、おかげさまで各大会の評価は概ねよかったと思います。ただ、3オープンとも夏の猛暑でコースコンディションづくりには非常に苦労しました。またアマチュア競技では、日本アマチュアゴルフ選手権は残念ながら悪天候で最終日が中止になってしまいました。予備日は設けていたのですが、36ホールに満たず競技が成立しない場合のためという規定だったのです。54ホールを終えていた昨年のケースでは使えませんでした。少なくとも日本アマと日本女子アマは極力72ホールできるようにしたいので、規定の変更などを話し合っています。

—— パリ五輪では松山英樹選手が見事に銅メダルを獲得しました。

山中 金メダルを獲れなかったのは悔しかったと思いますが、3位であれほど喜んだ松山選手を見たのは初めてでしたね。ただ、オリンピックではプロの一流選手をトップの状態に持っていける環境をつくるのは、我々JGAだけでは難しいということが反省点として浮かび上がりました。選手団のサポート体制については次のロサンゼルス五輪に向けて、プロ団体とも協議して再構築したいと考えています。

大いに盛り上がりを見せた日本女子オープン



ゴルフ振興のスローガンとロゴマーク「Golf is Good! ゴルフっていいね!」



ゴルフ振興の取り組みなどを発信するゴルフ応援サイト



健康維持増進のためのゴルフスクール「JGA WAGスクール」



日本女子OP歴代優勝者による女性限定レッスン会での塩谷育代プロと受講者

—— 次に昨年のゴルフ振興への取り組みについてお聞かせください。

山中 まず3月に「Golf is Good! ゴルフっていいね!」というゴルフ振興全体のスローガンとロゴマークをつくりました。「Golf is Good!」は元々、R&Aのキャンペーンで、この言葉から「ゴルフっていいね!」という日本語をつくり、R&Aに許可をもらってスローガンとしました。ゴルフ振興推進本部では現在、3つの部会を設けてゴルフ振興に取り組んでいます。まず情報シェアリング部会ですが、ゴルフ応援サイトでゴルフ関連団体やゴルフ場で行っているゴルフ振興の取り組みなどを発信しています。ただ、投稿数、閲覧数ともに伸び悩んでいますので、より多くの方に見ただけのような策を考えています。

—— ゴルフと健康部会ではどのような活動をされましたか。

山中 ゴルフは健康によく、認知症対策にもなるというエビデンスが世界中で始まっています。それをみなさんにどう分かりやすく伝えていけるかがテーマなのですが、世の中健康志向ですから国もゴルフと健康には興味を持っていて感じています。イベントとしてはゴルフを通じた健康維持増進のためのスクールであるJGA WAGスクールと3オープンの会場でスタンプラリーの「ごる印めぐり」などを実施しました。

「ごる印めぐり」は2年目でしたが多くの方が参加してくれましたね。来年以降も続けたいですし、他のトーナメントでもやっていただければと思っていますところ。

—— 女性とゴルフ部会はいかがでしょう。

山中 新たに「Women's Golf Now」の活動名称とロゴをつくり、いろんなゴルフ関連団体とも協力して女性ゴルファーを増やすためのさまざまな策を講じた1年でした。そのひとつが日本女子オープン開催週に合わせて実施した「秋の女性とゴルフ週間(9月15～29日)」です。会場となった大和根カントリークラブ近くの練習場では日本女子オープン歴代チャンピオン4名(塩谷育代、服部道子、馬場ゆかり、諸見里しのぶ)のプロによる女性限定レッスン会などを行いました。

—— 日本における女性ゴルファーの割合は全体の約15%という話を聞いたことがありますが、その割合は増えているのでしょうか。

山中 ゴルフ場の入場者数は正確に分かるのですが実は男女の比率は正確なデータがないのです。ただゴルフ場や練習場で見かける女性ゴルファーやトーナメントに来場する女性が増えていると感じています。今後はゴルフ場支配人会に協力していただき男女比率のデータをとる方向ですので、近いうちにある程度の正しい数字が分かると思います。

寄附金を広く募り、ゴルフを通じた社会貢献を推進していく

—— 次に今年、2025年に企画している取り組みをお聞かせください。

山中 まず、ゴルフ振興の一環として「Tee it FORWARD」(ティー・イット・フォワード)というUSGA(全米ゴルフ協会)とPGAオブアメリカ(全米プロゴルフ協会)が共同でつくったプログラムを日本でも広めていこうと考えています。これはゴルファーがそれぞれの飛距離に合うティーイングエリアからプレーすることでゴルフがより楽しくなり、プレーのペースを向上させることにもつながるというものです。ドライバーの飛距離に応じた最適な距離のガイドラインがあり、たとえば200ヤードならば5,200~5,400ヤードなのです。パー4の2打目が絶対届かない距離や、毎ホール2打目でフェアウェイウッドを使うようでは、本当にプレーを楽しめるでしょうか。最適な距離のティーイングエリアを選ぶことでパーオンを狙える楽しさが出てきますし、スコアも良くなる。これは世界的な傾向でもありますし、こういうことを訴求していくのもJGAの仕事だと考えています。

Tee it FORWARD

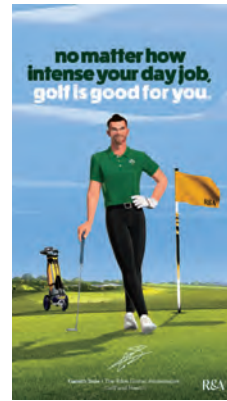
TEE IT FORWARDのガイドラインを参考にどのティーイングエリアからプレーするのが最適かを選んでください。

ティー選択のガイドライン

ドライバーの飛距離	推奨される18ホールのヤードージ
275	6,700-6,900
250	6,200-6,400
225	5,800-6,000
200	5,200-5,400
175	4,400-4,600
150	3,500-3,700
125	2,800-3,000
100	2,100-2,300

この表はゴルファーが自分の平均ドライビング飛距離に応じた最適なコースの長さを選ぶガイドラインとして使われます。

R&Aのアンバサダーに起用されている元サッカー選手のカレス・ベイル氏



©R&A

—— 他には何かありますか。

山中 R&Aからゴルフ振興を象徴するようなアンバサダーを置いたらどうかと提案されており、人選を進めているところです。R&Aも元ウェールズ代表の著名なサッカー選手のカレス・ベイル氏らをアンバサダーに起用してゴルフ振興に協力してもらっています。

—— 今年に寄附金の募集にも力を入れていくと聞きました。

山中 はい。ほかの競技団体も同じなのですが、東京五輪の後、国からの助成金がどんどん減っているというのが現状です。しかし、ゴルフ振興をはじめJGAとしてやるべき事業は増えている。これらの事業を実行するには従来の収入だけでは十分ではありません。ゴルフを通じた社会貢献に役立てたいと考えていただける企業や個人にPRして、今まで以上に広く寄附をお願いしていこうというものです。これまでも日本代表支援の寄附金などを募集していましたが、今年からはJGAの各事業に対して、例えば、ゴルフと健康の事業への寄附といった形で広く募ることができればと考えています。ゴルフは健康の維持や仲間づくりに役立ちますし、ゴルフ場がある地域の雇用促進や災害時の避難場所にもなり得ます。JGAのような公益法人に対する寄附には控除が認められますから、ゴルフを通じた地域貢献、社会貢献にぜひ協力していただければと思います。JGAはゴルフの統轄団体と呼ばれていますが、職員は20数名しかいませんし、財政的にも厳しい状況です。JGAだけでは何事も成し遂げることはできません。地区連盟やゴルフ関連団体をはじめ周囲のみなさんと一緒になってやっていくことが必要です。JGAは旗振り役としてゴルフ振興や競技の運営、ゴルフを取り巻く環境の整備などさまざまなことに取り組んでいきます。創立101年目となる2025年は次の100年に向けて新たな一歩を踏み出す年にと考えています。



ゴルフができる今日は、幸せな日。

自慢できるほどのスコアではないけれど、大きな心配ごとがなく、体調もほどほどで、日常から離れてクラブを振れるなら、それが私の幸せ。振り返れば、新緑の中で仲間が笑っている。今日はコーヒーでも飲んで帰ろう。

FUN to Golf is Good!

5月は FUN to GOLF! ゴルフ月間

2025年5/1(木) ▶ 5/31(土)

春の女性とゴルフ週間 2025年5/11(日) ▶ 5/25(日)

世界80カ国、200ヶ所で開催。女性ゴルファーのためのイベント。

WOMEN'S GOLF DAY 2025年5/27(火) ▶ 6/3(火)

健康維持増進のためのゴルフスクール

WAG

ウイズ・エイジングゴルフ



新居浜カントリー倶楽部 「女性に優しいゴルフ場」づくりが もたらした効果



新居浜カントリー倶楽部（愛媛県）では新たに「女性に優しいゴルフ場」を標榜。全ホールからのショットガンスタート方式の「レディース貸切コンペ」を企画・運営。細やかな配慮で好評を得るとともに全体の来場者数も急伸。さらには、スタッフのモチベーション向上という効果も。この試みをけん引する秦恭裕支配人に話を聞いた。



——最初に「レディース貸切コンペ」を企画された経緯を教えてください。

秦支配人 私どもの倶楽部の将来を考えたとき、女性客の比率を高めることは急務と判断しました。そのため、「女性に優しいゴルフ場」への変革を目標に、施設面の整備からアメニティーに至るまで様々改良に努めました。

——当時の女性来場者の比率は？

秦支配人 2019年度（3月決算）で8.3%（2066人）でした。

——確かに少ないですね。ゴルファー全体に占める女性の割合は、最近では22～23%に達したという調査もあります。また、新居浜CCのような歴史あるメンバーシップクラブでも、コースの特徴によりますが、少なくとも2桁には乗せたいですね。

秦支配人 少なくとも10%はなければ、倶楽部の健全な運営は難しいと考えておりました。

——女性ゴルファーが少ない地域なのでしょうか？

秦支配人 いいえ。周辺には比率の高いゴルフ場もあります。

——女性客が少ない一番の理由は何？

秦支配人 当コースは上田治さん設計で、距離が長く戦略性も高い（スキルを要する）コースです。この面白さを知ってもらうには、何度かプレーしなければならないのが大きなネックと思っています。少し余談ですが、女性には難しすぎるからと、一度レディースティーを前に出したことがありました。ところが、1年ほど経ったところで、ある女性から「これでは面白くない。新居浜CCの魅力がなくなった」というご指摘をいただき、元に戻したことがありました。



——興味深い話ですね。非力な女性でもいいスコアを出せる設定にすれば喜ばれると思いきや……。

秦支配人 そうなんです。そんな紆余曲折も含め、いろいろと改良を進めたことで、徐々にですが女性客数は伸びていました。ところが、当倶楽部では毎月末に1回、「レディースコンペ」（オープンコンペ）を開催しているのですが、その集客も、盛り上がりにも欠ける。そこで、なんとか規模の大きなレディースコンペを開催できないかと考えたのですが、それには女性のロッカー数が足りない。30本しかないんです。だったら、女性だけの貸切コンペをやってみようとなったわけです。

——企画されたのはいつ頃ですか？

秦支配人 2023年の1月です。しかし、女性の貸し切りなんて経験がありませんから、どうやったらいいのか分からない。そこで、スタッフ皆で話し合っ、挙がった課題をひとつひとつ塗りつぶしたところで、とりあえず3月に一度やってみようとなりました。第1回「レディース貸切コンペ」は3月21日（祝日）に、49組174人の方にご参加いただきました。

——集客はどのようにして？

秦支配人 定期的にコンペを開催している女性グループが3～4組ありますので、まずそこに呼びかけました。それと、SNS（公式LINE、フェイスブック、インスタグラム）を開設。WEB会員制度も運用）担当の有能なスタッフ（女性）がおりまして、1月下旬から告知・案内を始め、約1か月でほぼこれだけ参加者が集まりました。

——このときは4ホールからのスタートだったんですね。

秦支配人 なんとでも全員が出席する表彰式（入浴は表彰式後）を行いたかったのですが、本当は全ホールからのショットガンスタートにしたかったのですが。でも、そのノウハウがなかったから、まずは4ホールスタートにして、それでも最初と最後の組のホールアウトの時間差を1時間以内に収めようと試みました。そのため、大会前にスコア入力ナビを搭載したカート（配置やプレーヤーの送り迎えを確認するシミュレーション（模擬テスト））をやりました。

——当日、何かトラブルは？

秦支配人 スコア入力に慣れない組の影響で全体のホールアウト時間が予定より遅れてしまいました。

——表彰式に何か趣向は？

秦支配人 第2回（23年7月）までは途中で昼食をとっていただいたので、表彰式（組ごとにテーブル席を設定）には女性に喜ばれるスイーツバイキングを用意しました。それと賞品です。最初は私も賞品選びをしたのですが、評判が良くなかったもので（笑）、第2回以降はすべて女性スタッフ（5名）に任せています。敢えて値段の上限は設けず、女性が欲しいと思う賞品を揃えてもらっています。そのため、毎回会議室で長い時間かけて選んでいるようです。「値段の上限なし」といっても常識の範囲で、一番高い品で5万円程度でしょうか。

——5万円!? 参加費2,000円（別途、割引のプレーフィー）のオープンコンペで豪華ですね。

秦支配人 ですから、このイベントだけ見れば赤字でしょう。でも、年3回（昨年は1月、5月、9月に実施。今年も同様の日程で開催予定）のイベントによる広報・宣伝効果を考えると全然赤字ではありません。

企画・運営は女性スタッフを中心に

—— 昨年1月の第3回から全ホールショットガン方式になりましたが、最初不安は？

秦支配人 限られた人数での運営ですから、いろいろ工夫しなければなりません。一番の頭を悩ませたのは、各組の最終ホールからの帰路でした。皆さんにいかにして迷わず、スムーズに帰っていただけるかということで、コース管理や事務の職員も動員し、合計12～13人のスタッフをどこに配置すればよいか。机上ですが、時間をかけてシミュレーションしました。それでもスタートの合図が聞こえないとか、プレーの途中で道順に迷ったとか、毎回毎回改善点があります。しかし、その都度、対策を練ることでノウハウができたので、今は他の大型コンペやゴルフ大会にも採用し、喜んでもらっています。

—— 一番のメリットは表彰式やパーティーまでの待ち時間が短いことですか。

秦支配人 そうですね。32組までに制限していますが、クラブハウスに戻られる最初と最後の組の時間差は30分ほどです。

—— プレー終了後、一番待たされる組でも30分+αで表彰式(ビュッフェ形式の昼食付)というわけですね。

秦支配人 また、女性貸切にすると、男性用の広々としたロッカールームや浴室を利用してもらえますから、その点でも喜ばれております。



全ホールショットガン方式によるレディースコンペの運営。一斉にカートが配置されている



「レディース貸切コンペ」運営の主な要点

- ① 女性が参加しやすい土・日・祝日に開催
- ② 賞品選びは女性スタッフだけで協議。女性が欲しいと思うものを揃える
- ③ 1人参加も受け付け、交流の図れる場にする
- ④ リピーターを大事に、コンペ内容は可能な限り変化を持たせる
- ⑤ 男性トイレのマークや男性用便器の目隠し
- ⑥ ロッカーームの入り口に目隠しを設置
- ⑦ 料金は可能な限り低料金に
- ⑧ スイーツバイキングや軽食の種類は可能な限り多く揃える
- ⑨ アンケートを実施し、女性の意見を取り入れる



トイレの男性マークを女性マークに上貼りするなど女性に対しての細かな配慮がなされている

—— 他にも女性に対する細かな配慮があるとお聞きしています。

秦支配人 すべてうちの女性スタッフの発想なんです。女性に開放される男子トイレは、男性用便器がきれいに目隠しされています。また、男子トイレのマークも、女子トイレのマークでカバー。コース内のすべてのトイレがそうになっています。

—— そこまでの配慮は男性にはできませんね。

秦支配人 ですから、「レディース貸切コンペ」はすべて彼女たちに任せます。私が入る余地はありません。ただ、「いつも同じ趣向では飽きられるから、毎回新しい案を出してほしい」とだけ伝えています。例えば、「次はチーム戦」という方向性だけでもいいので、常に新しい企画を用意してもらいたい。結果、失敗しても、失敗や不評の理由が分かれば、「肥し」になり、ノウハウになりますから。最初からパーフェクトは求めていません。

①③1人予約も可能とし、女性の参加しやすい環境づくりに力を入れている



⑧⑨表彰式のパーティーではスイーツバイキングや軽食を多様に用意。アンケート実施で女性の意見を取り入れている

—— 振り返って、何か反省することは？

秦支配人 反省ではありませんが……。表彰式は皆さんお揃いになったところで始めたい。ところが、一度、ホールアウト後にお風呂に入られた方がおられ、開始が遅れたことがありました。そこで、参加者に厳守してもらいたいことは、しっかりとアナウンスしなければと気づかされました。参加者の皆さんには表彰式の前に、さっと書き終わる程度の簡単なアンケートに答えてもらっています。その用紙には自由記入欄があり、思ったことを何でも書いていただけます。そこで、意外な改善点を指摘されることがあります。

—— 昨年9月16日(祝日)の第5回大会は30組、参加者105人ということで好評のようですが、参加者の年齢のボリュームゾーンは？

秦支配人 正確には分かりませんが、60代～70代だと思います。想定よりはやや高いですね。今後は若年層と子育てを終えた40～50代へのアプローチが必要ですね。

—— 参加者はビジターが中心ですか？

秦支配人 そうですね。ビジターのリピーターが多く、その方々からの口コミの効果が大きいようです。それとSNSですね。コンペの華やかな様子や女性ゴルファーが楽しんでいる姿の発信も効果があると思います。

—— 課題だった来場者に占める女性の比率は？

秦支配人 2023年度は11.2% (3704人)。2桁に乗りました。24年度はさらにアップすると思います。それに合わせて全体の来場者数も増えています。19年度の2万66人から、23年度は3万2932人に増加。24年度は3万6000人台になると予想しています。

—— 10%近い増加率ですね。

秦支配人 その大きな要因が「女性に優しいゴルフ場」づくりと思っています。このことはメンバーさんにも理解していただいています。

—— 日本ゴルフ協会では関係団体と協力し、女性ゴルファーを増やす方策を行っています。なにかアドバイスをいただけないでしょうか。

秦支配人 うちからアドバイスできることなんてありませんよ(笑)。うちはただ、「女性の、女性による、女性のためのレディースコンペ」を企画しただけです。これを徹すれば、女性は来てくれると思っています。

—— お話を伺うと女性スタッフの働きがとても大きいように思いました。そのマネジメントが素晴らしいですね。

秦支配人 実は、当倶楽部は職員30人ほどのうち女性は16人、半分以上なんです。ですから、彼女たちには力を十分に発揮してもらわなければならない。私はその邪魔をしないようにしているだけです(笑)。その結果、皆のモチベーションはより高まったように感じています。そして、いつも新しいことを考えてくれています。

—— 「女性に優しいゴルフ場」づくりには、女性スタッフの活躍は欠かせないでしょうね。素晴らしいアドバイスをいただきました。ありがとうございました。

開催倶楽部会員からオープンレフェリーを—— 東京ゴルフ倶楽部 森脇氏の挑戦

昨年、JGA創立100周年の記念大会となった日本オープンゴルフ選手権に会場の東京ゴルフ倶楽部会員でもある森脇純夫氏がレフェリーとして参加した。森脇氏は開催倶楽部会員からオープンレフェリーを養成しようという試みから生まれた新しい形のレフェリーだ。未経験から約2年でオープンレフェリーを務めるまでになった森脇氏に、その道のりを聞いた。



—— まず、森脇さんがレフェリーを目指したきっかけをお聞かせください。

森脇 2022年の夏ごろだったと思いますが、JGAの規則委員会委員長で東京GCの会員でもある鈴木淳さんから「2年後に東京GCで日本オープンが開催されるにあたって会員の中からレフェリーを養成したいとJGAと話しをしている。12月に行われるJGAのルールテストに向けての勉強会を競技委員会のメンバーを中心に作ったから関心がある方は参加してください」という話がありました。私は競技委員ではなかったのですが、ゴルフ規則を学ぶいい機会だと思って入れていただきました。

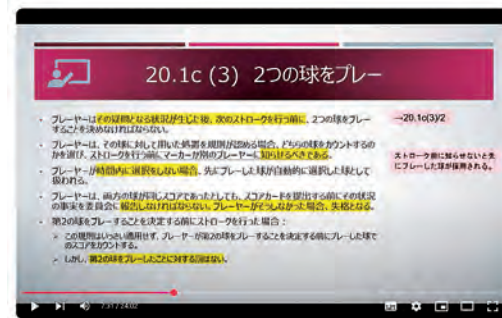
—— もともと学生時代などに競技ゴルフをされていて規則に興味があったのでしょうか。

森脇 いえ、学生時代にゴルフ部だったということではありません。私の仕事は弁護士なのですが、1981年に24歳で弁護士になったところに同業の仲間とゴルフを始

めました。東京GCに入会させていただいたのは2004年ですが、競技は倶楽部競技に参加している程度です。ハンディは10から11くらい。典型的なアマチュアゴルファーです。規則に関しては以前から分からないところは規則書を見るようにはしていたのですが、読んで理解しづらいところがありましたからこの機会に勉強しようと。日本オープンでレフェリーをやりたいというよりも、規則をきちんと勉強したいという気持ちが先でした。

—— 勉強会にはどれくらいの会員が参加して、どのような内容だったのでしょうか。

森脇 参加されたのは競技委員らを中心に8、9人だったでしょうか。どこかに集まるのではなく、JGAルールズコミッティの市村元チーフディレクターがゴルフ規則を1条ごとに解説する20～30分の動画をつくってくださり、それを各自が都合のいい時に視聴するという形でした。3カ月ほどかけて1条ずつ勉強し、12月にJGAのルールテストに臨んだわけです。



JGA作成のゴルフ規則解説動画を視聴した

—— ルールテストはどのような形ですか。

森脇 オンラインで、1時間で100問でした。80点以上でB級レフェリーの資格が与えられ、3オープン(日本オープン、日本女子オープン、日本シニアオープン)の地区予選と最終予選のレフェリーができるようになります。

—— 東京GCの勉強会参加者でクリアできたのは森脇さんおひとり?

森脇 はい。途中でリタイアされた方やいろいろな事情で当日テストを受けられなかった人が数人いて、結局ルールテストを受けて合格点を取れたのが私1人。鈴木さんから「合格したのは森脇さんだけだからレフェリーやってくれるのでしょうか」と言われて、引っ込みがつかなくなりました(笑)。

—— その時点で森脇さんが2024年日本オープンでレフェリーをされる流れが決まったわけですね。

森脇 本選でレフェリーをするには3オープンの予選競技で10ラウンド以上レフェリーをこなしてA級の資格を得ることが必要です。逆算すると、翌年のルールテストで合格しても間に合いませんから私がやるしかなくなったのです。

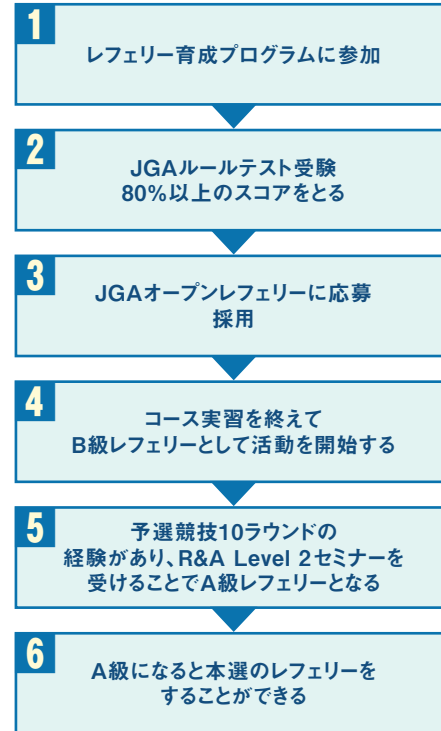
—— ルールテストをクリア後、予選競技でレフェリーデビューするまでにはどのような準備をされたのですか。

森脇 翌2023年の1月と3月に新人レフェリーを対象にした実際のコースを使うロールプレーの講習を受けました。そこで感じたのはルールテストと実際のルーリングはまったくの別物だということ。この場面で適用されるルールは何かということを瞬時に判断して選手役の講師の方とやりとりするのですが、紛らわしい状況が設定されているので、なかなかうまくいかなかったですね。

—— そして初めてレフェリーとして予選競技に臨んだわけですね。

森脇 はい。5月に東京GCで日本オープンの地区予選がありまして、そこがデビュー戦でした。

レフェリーへの道のり



—— 緊張感はいかがでしたか。

森脇 最初は不安でいっぱいでした。ロールプレーではあまりうまくいかなかったので緊張感はありましたね。ただ、実際のルーリングはロールプレーのような紛らわしいものではなく単純なものが多かったですから、回数を重ねるごとにだんだんと落ち着くことができました。

—— その後はどのようなスケジュールでレフェリーを務めたのでしょうか。

森脇 この年(2023年)はデビュー戦を含めて地区予選が4回、そして8月の末に2日間の日本女子オープン最終予選に行きまして、計5つの予選競技で6ラウンド、レフェリーを務めました。

—— レフェリーをされる時は仕事を休まなければならないと思いますが、本業との兼ね合いは問題ありませんでしたか。

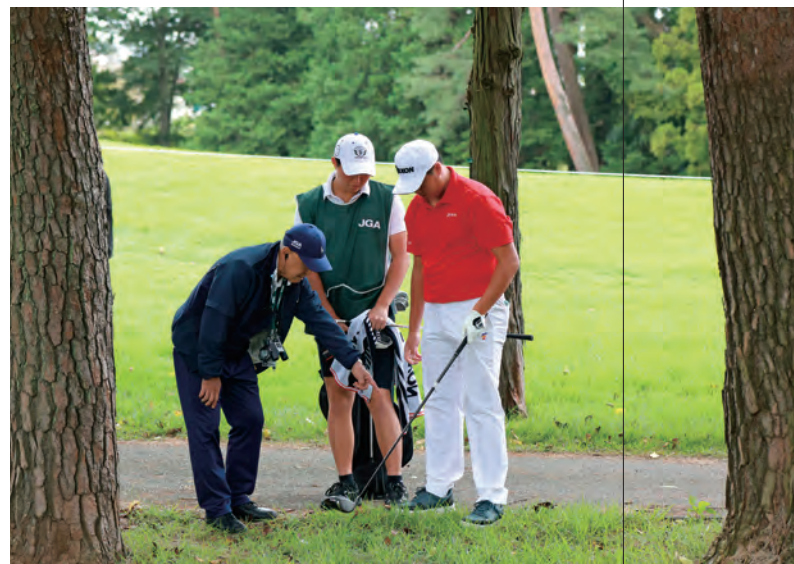
森脇 前日の昼間にコース入りして担当するホールの下見などやるべきことがたくさんあります。ですから1日競技の地区予選は実質2日掛かり、2日競技の最終予選は3日掛かりになります。私の仕事は自分である程度調整はできますけども、仕事との兼ね合いをつけるのがそれなりに大変な時期もありました。それでも、2年間で所定のラウンド数をクリアすることはできました。



R&A Level 3ルールセミナー。規則紛議のビデオを見ながらディスカッション、コース上でのレフェリー・ロールプレーなど 実践的な知識、技術を習得

—— 予選競技のレフェリー以外にも何か勉強されたりしたのでしょうか。

森脇 レフェリーとして所定のラウンド数をこなすほかにJGA指定の講習も受ける必要があり、その中にはR&Aのレベルテスト受験もありました。レベル3のテストは2024年2月にあり、無事合格できましたので翌月に2日間にわたって東京GCで行われたレベル3のセミナーにも参加することができました。



東京GCで開催された日本OPで3番ホール左側の林にて松山榮生選手に管理道路からの救済措置の裁定をした森脇氏

—— 日本オープンでレフェリーをするためにはレベル3テスト合格が必須なのですか。

森脇 いえ、JGAとR&Aの資格は別なのでJGAのA級資格を持っていればオープン競技でレフェリーはできます。ただ、実際に選ばれるかどうかはチーフレフェリーが決めること。私の場合は東京GCの会員の中から日本オープンのレフェリーを養成するというプログラムの中でやらせていただいたので特殊なケース。経験豊富なベテランの中に新米が入ったという形でした。

—— いよいよ日本オープン本番。それまでとは違う緊張感がありましたか。

森脇 やはり予選とは雰囲気そのものが違いますし、独特の高揚感がありました。ただ、前年の日本オープンにオブザーバーとして行かせてもらい、レフェリーの方のルーリングを実際に拝見させていただいていましたので、その経験は助けになりました。

—— 実際にホームコースで4日間、レフェリーをされていかがでしたか。

森脇 前回、東京GCで日本オープンが開催されたのが2001年で、私は2004年入会ですから経験していませんでした。会員である期間に自分のホームコースで日本オープンが開かれるということはなかなかないことですので、何かの形で貢献できればと思ってはいたのですが、まさかレフェリーという形で参加するとは思っていませんでした。



日本OP初優勝を飾った今平周吾選手、ローアマチュアを獲得したキャンベル選手と森脇氏（前列左から3人目）らオープンレフェリーの集合写真

—— コースはふだんプレーしている状態とはかなり異なっていたのではないのでしょうか。

森脇 何百回と回っていますが、こんなに難しいコースだったのかと思いました。特にラフですね。とぐるを巻いているような状態で、ラフに入ると球探しが難しいわけです。試合中、近くで球探しが始まれば駆けつけて一緒に探すのですが、レフェリーは3分の搜索時間を計測しなければならない。首から下げているストップウォッチを「今から計測を始めます」と宣言して押すわけですが、とても嫌な瞬間です。ボール探しに長けたボランティアの方が要所に配置されていましたが、あれだけのラフですとなかなか見つからない。搜索時間内に見つかりと本当にホッとしました。

—— 2年間レフェリーをされて、やってよかったと感じた点がありますか。

森脇 ふだんはデスクワークが中心の仕事ですから、それとは真反対に一日中コースにいる仕事は自分にとって新鮮な経験でした。それに、競技はこれほど多くの裏方のみなさんに支えられているのだということも実感できました。例えば、我々レフェリーは朝5時半前にコースに入りますが、その時間にすでに食堂で朝食が準備されているのです。つまり、コースの方はもっと早く出てきているわけです。グリーンキーパーをはじめ、コース整備のみなさんもそう。この年齢になってこんな新

しいことを経験できるとは思わなかったもので、ありがたかったですね。

—— ご自身が感じたレフェリーの魅力などありましたらお話しいただけますか。

森脇 レフェリーの役目は規則を公平に適用し、フィールドにいる全員が公平な条件のもとで競技ができるようにすること。競技の公平な進行に少しでも貢献できるというのはやりがいがあると思います。

—— 実際に経験された開催倶楽部会員からレフェリーを養成するプログラムについてはいかがですか。

森脇 倶楽部にとっても個人にとっても、より深く競技に貢献できますから、とても意義のあることだと思います。

—— 専門的な知識や経験がない状態からでも約2年でオープンレフェリーを務めることが可能だと森脇さんが実証されたと思います。森脇さんがロールモデルとなってこれからも開催倶楽部からオープンレフェリーが生まれることをJGAとしても期待しています。

森脇 レフェリーはさまざまな職業の方がボランティアでやっているのですが、みなさん喜々としてやっていらっしゃる。それだけレフェリーという仕事自体に魅力を感じているということではないのでしょうか。私自身も本当にいい経験をさせていただいたと感謝しています。

—— ありがとうございます。